



ひか
おおつ光ルくんで行く

百人一首紀行



競技かるたの名人戦・クイーン戦や高校選手権大会が開催される大津には百人一首にゆかりの場所がたくさんあるんだ。歌や歌人のエピソードを知って、実際に行ってみるともっと大津が楽しくなるよ。ボクが、そのいくつかをご紹介します。かるたと大津のことをもっと知ってもらえれば嬉しいな…。





融神社 (大津市伊香立南庄町)

源融(河原左大臣)ゆかりの地

平安時代初期の公卿、源融がこの地に閑居した頃に一面の鏡を埋め、その後、この鏡を掘り出して神璽とし、源融を祀ったのがはじまりとされています。都に大きな邸宅、河原院を持ったことから河原左大臣と呼ばれました。河原院には多くの貴族が集まり、平安文化を担ったとされています。源氏物語の光源氏のモデルとも言われています。



白鬚神社



小野神社 (大津市小野)

小野篁(参議篁)ゆかりの地

ご祭神の米餅搗大使命(たかねつきおおおみのみこと)は菓子作りの神様としても広く信仰を集めています。境内には小野篁(参議篁)を祀る小野篁神社や小野道風を祀る小野道風神社があり、社殿はそれぞれ国の重要文化財に指定されています。

少し足を
のばして
みると...

比叡山

崇福寺

唐崎神社

三井寺

長等神社

近江神宮

逢坂山

石山寺

猿丸神社の駐車場脇にある湧き水は、境内の水がめに入れて飲用すると病気を治癒すると言われています。境内にはかわいい“猿みくじ”もあるよ。300円です。



猿丸神社 (京都府綴喜郡宇治田原町)

猿丸太夫ゆかりの地

平安時代の末期、現在の大津市大石曾東町に猿丸太夫の墓があったとされ、江戸時代初期に、ほぼ現在の地に遷し祀られたときに、神社が創建されました。猿丸太夫は古来、歌道の神として崇められました。また“こぶ取りの神”としても篤く信仰されています。



監修：林 和清(歌人)

大津あきのた会

Tel.077-524-3905(近江勸学館)

一般社団法人全日本かるた協会に加盟する百人一首競技かるたの愛好団体。近江勸学館を中心に練習会等の活動をしています。全国競技かるた各会対抗団体戦優勝3回、国民文化祭(滋賀県チーム)準優勝2回。

協力大津市(観光振興課 Tel.077-528-2756)

<http://www.otsu.or.jp/>

ボクは「ちはやふる」の映画にも出演したんだ。もしかすると、映画に出演したときと同じポーズで勤学館の廊下にいるかも…。



近江神宮

— 天智天皇をご祭神とする「かるた」ゆかりの地



補足情報 ▶最近に勤学館の2階ロビーにあるソファが観光に来る人の撮影スポットに!。映画「ちはやふる」で千早が座っていた場所で記念撮影する人が増えています。

近江神宮と競技かるた

「ちはやふる」をきっかけに、近江神宮の近江勤学館は「競技かるたの殿堂」と呼ばれて有名になりました。全国高等学校かるた選手権大会は1979年(昭和54年)に滋賀県で全国高校総体(インターハイ)が開かれるのにあわせて始まりました。第1回は8校の参加でしたが、2016年(平成28年)には全国代表と海外の56校、個人戦にはおよそ1500人が出場しています。日本一を決める名人戦・クイーン戦は1月初旬の土曜、その翌日には高松宮

記念杯が近江勤学館で開催されます。他にも年間を通じて数多くの競技かるたの大会や行事がおこなわれています。

667年(天智天皇6年)に大津京に遷都した天智天皇をご祭神とする近江神宮は、1940年(昭和15年)に創建。境内からびわ湖も見わたせます。社殿は昭和造りまたは近江造りと呼ばれ、1998年(平成10年)に国の登録文化財になりました。朱塗りの楼門は映画や漫画の「ちはやふる」でも有名です。

天智天皇は「大化の改新」を行い、日本で初めての戸籍をつくり、学校の制度を始めるなど、それまでの治世の改革に努めました。671年(天智天皇10年)に日本で初めて漏刻(水時計)をつくり、鐘をたたいて時を知らせたと言われており、境内には時計館宝物館、漏刻、日時計などがあります。

百人一首第1番の「あきのたの…」の歌の原型は万葉集にあります。秋に実った稲穂を収穫前に鳥や獣から守ろうと、粗末な仮小屋で夜露に濡れながら見張りをする農民を歌ったものとされ、後に、慈愛深く、改革を行った理想的な天皇とされた天智天皇の作と伝わるようになりました。他にも額田王をめぐる大海人皇子(後の天武天皇)との恋のかけひきも有名です。

競技かるたを始めたい人のための入門教室は随時開催中!。1月3日には、かるたを知らない人でも自由に参加できる「百人一首チャレンジ大会」を開催しているよ。ちらし取りやお坊さんめくりが当日参加で楽しめるので、くわしくは問い合わせね。



補足情報 ▶勤学館1階入口には、ファンの人が置いてくれた「机くんノート」があります。近江神宮を訪れた感想や思い出を書いてみてくださいね。

近江神宮



天智天皇の詠んだ歌

天智天皇は額田王をめぐっての弟の大海人皇子（後の天武天皇）との恋の逸話が有名です。大海人皇子と結婚していた額田王は、後に天智天皇の妻となりますが、万葉集にはこんな歌が残されています。

（長歌）

香久山は 畝傍ををしと
耳梨と 相争ひき 神代より
かくにあるらし 古も
然にあれこそ うつせみも
妻を 争ふらしき

（反歌）

香久山と耳梨山とあひし時
たちて見に來し印南国原
わたつみの豊旗雲に入日さし
こよひの月よさやけかりこそ



「大和は古来より、大和三山の畝傍山をめぐって、天香久山と耳成山が争ったという国だ。神々でさえ恋のために争うのだから、恋

しい人のために戦っても当たり前ではないか」という、強い思いが込められています。額田王は天智天皇と結婚して晩年まで仕えますが、その前に天智天皇と結婚していた鏡王女との間にこんな歌のやりとりも残されています。

君待つと我が恋居れば我がやどの
簾動かし秋の風吹く 額田王

風をだに恋ふるはともし風をだに
來むとし待たば何か嘆かむ 鏡王女

「天智天皇のお越しを待っていると、簾が動いたので、やっとお越しになったのかしらと思って心ときめかせて見てみると、秋風のいたずらでした」と詠んだ額田王に、鏡王女が「風のいたずらであっても、ドキドキするのは羨ましいことですね。私のもとにはもうその方は永久に來ないのですから」と歌で答えたそうです。

額田王には、天智天皇に仕えるようになってから、大海人皇子と交わしたという有名な贈答歌があります。天智天皇が紫草の群生地である蒲生野で盛大な狩りを催したときの歌です。

あかねさす紫野ゆき標野ゆき
野守は見ずや君が袖振る

紫草のにはへる妹を憎くあらば
人妻ゆゑに我恋ひめやも

「そんなに私に対して袖を振らないでください。野守の衛兵や天智天皇が見たらどうす

1階ロビーには映画や漫画の「ちはやふる」ゆかりの品も置いているんだ。光ルくんグッズも販売しているよ。

るのですか」という額田王に「あなたのことを厭わしく思うなら、どうして人妻であるのを知りながらあなたに恋などするのでしょうか」と大海人皇子が答えたものです。

この歌は狩りの宴席の戯れで詠まれたものとも言われていますが、後に天智天皇の子・大友皇子と大海人皇子は壬申の乱で戦うことになります。



▶境内には、天智天皇が漏刻（水時計）を作ったのにちなみ、漏刻が設置されています。

▶天智天皇は学問を奨励し、現在の南滋賀に勤学堂を建てました。「近江勤学館」の名前はそれに由来するものです。

補足情報

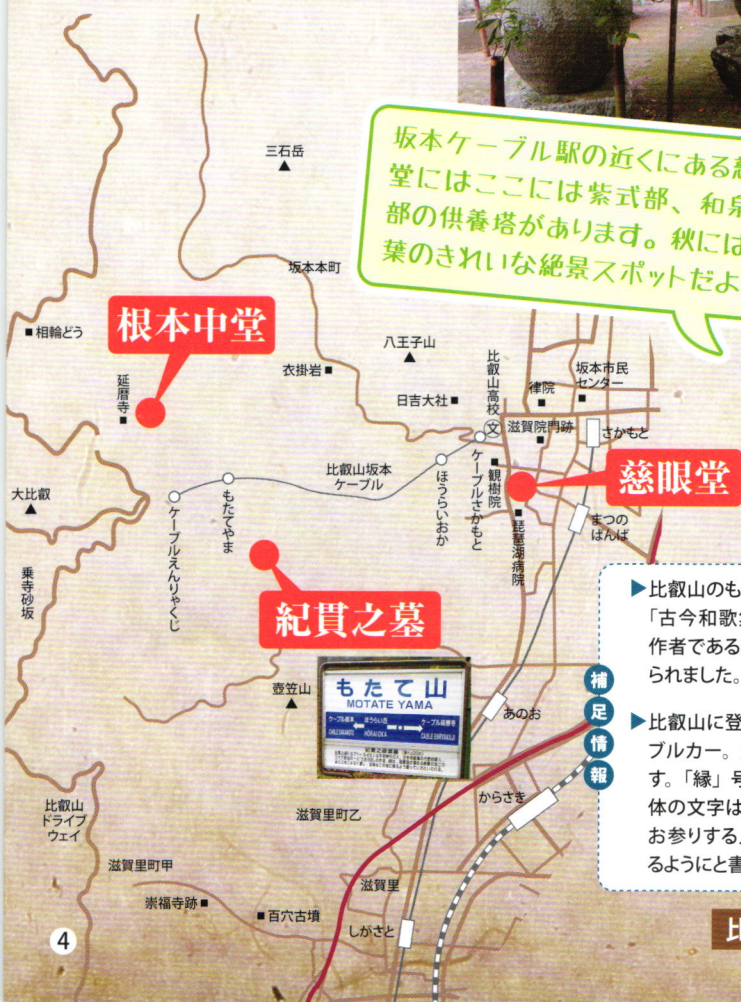
前大僧正慈圓
おほけなく
うき世の民に
我が立つ山に
墨染の袖

95

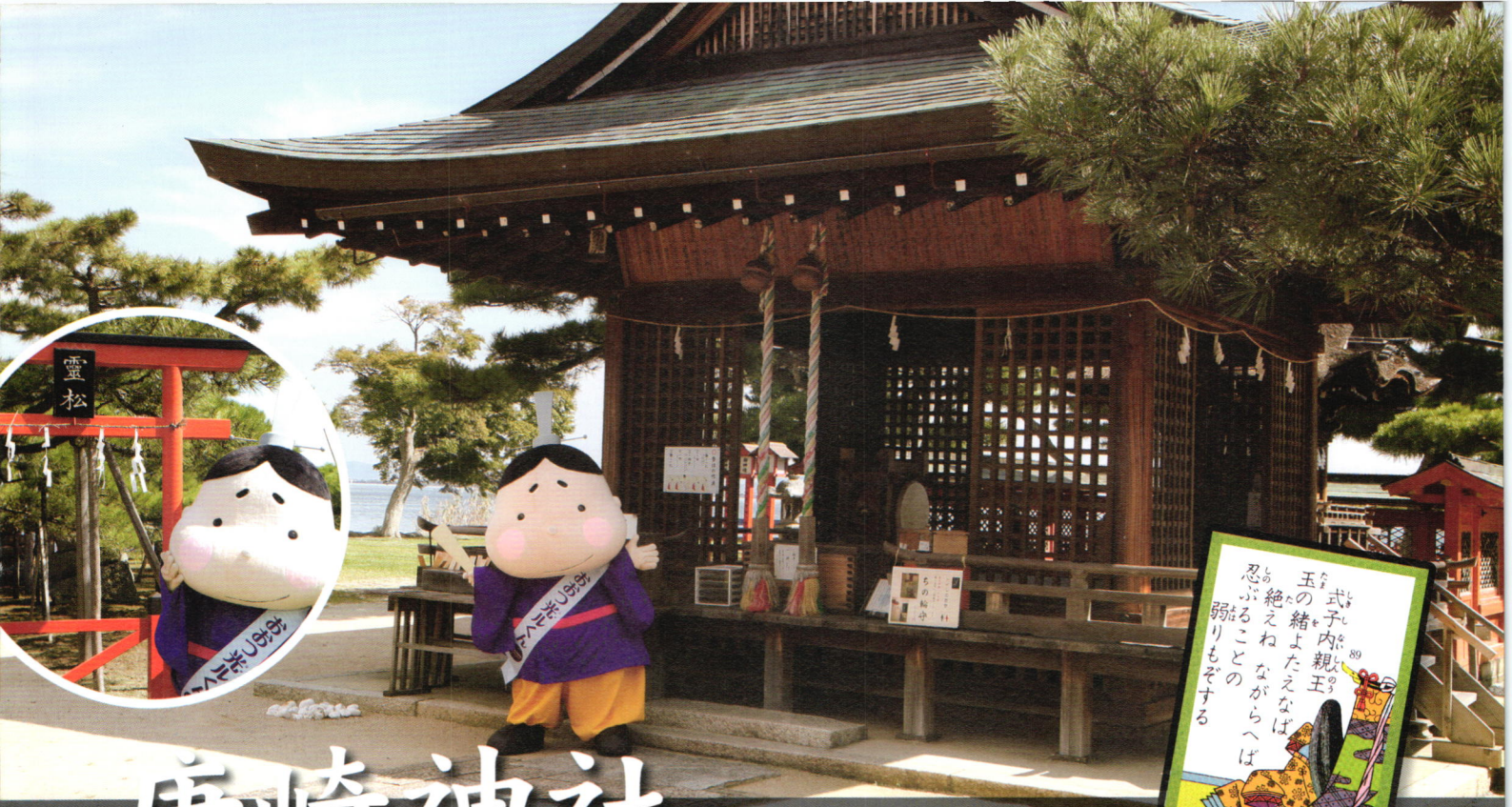


慈円が坂本の僧房で亡くなったときには、
地元の人たちがみな嘆き悲しんだと言います。
そのお墓は無動寺からさらに奥に入った山の
中にあります。

A cartoon illustration of a character with a large, round face, wearing a purple robe with a red sash and a black hat with a long, thin, vertical fin. The character is holding a wooden stick or staff in their right hand. The character has a neutral expression with small eyes and a small mouth. The background is white with a green speech bubble on the left containing the text '現代' (Modern) and '一' (One).



▶ 慈円は藤原家に生まれ13歳で出家。無動寺で千日入堂の修行を行いました。藤原俊成に師事し、後鳥羽院に近い歌人として歌合せなどで才能を発揮。承久の乱には後鳥羽院に幕府との対立を避けるよう進言したと言われてい



唐崎神社

—— 式子内親王ゆかりの地



唐崎神社の「夏越の祓」のときに供される「みたらし団子」。唐崎神社の前にはみたらし団子のお店があるよ。注文後すぐに焼いてもらえ、できたては最高！
3本330円から（定休日は木・祝）



柿本人麻呂の「さぎ波の志智の唐崎さきくあれど、大宮人の船待ちかねつ」芭蕉の「唐崎の松は花よりおぼろにて」など、唐崎はびわ湖の絶景の一つとして歌人や俳人のお気に入りだったそうだよ。



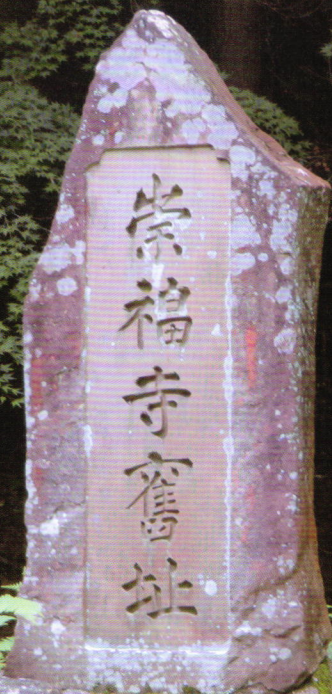
後白河法皇の皇女として生まれた式子内親王は六歳で賀茂の斎院として神に仕えます。生涯にわたって恋愛を禁じられる立場となった式子内親王は、二十歳のとき病氣により退下することになります。その際に、唐崎神社の祓所で身を清め、斎院から俗世へ戻ります。しかし、一度神に仕えた内親王は自由な結婚は許されず、母や、弟の以仁王と暮らすことになりますが、弟が平家に対して挙兵して戦死。その後まもなく都を襲った大地震で大火に焼かれ、飢饉も起きて、住むところも転々と変え、絶望的な日々を送るのです。そんな式子内親王は叶わぬ恋の歌を数多く残しました。百人一首に選ばれた歌「玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば しのぶることの弱りもぞする」もそんな一首。この恋の相手は百人一首を選んだ藤原定家ではないかという説もあります。式子内親王が、藤原俊成、定家の親子を歌の師としており、二人の思いが通い合ったのではないかとして謡曲「定家」にも描かれています。またほかに、浄土宗の宗祖・法然上人への精神的な愛の心を詠んだのではないかと、との説もあります。

不幸な人生を送った内親王が唐崎神社で詠んだ歌「みたらしや影絶えはつる心地して しがの浪路に袖ぞぬれにし」は、もっとも幸福なころであった少女時代の頃を思っ詠んだ歌とも言われています。

- ▶ 唐崎は、平安時代には「七瀬の祓（しちせのはらい）」の一つとして朝廷で行事を行うときに必ずお祓いを行う場所となり、多くの姫君たちがお祓いをされたことから、特に女性の信仰を集めています。
- ▶ 境内の「唐崎の松」は近江八景の一つ「唐崎の夜雨」でも知られ、現在もその様子がうかがえる貴重なもの。現在の松は三代目になりますが、歌川広重の「唐崎夜雨図」では枝がびわ湖までは達する巨大な松として描かれています。同じ松が金沢の兼六園にもあります。



大津港からびわ湖大津館には夏には“汽船DEビール”冬には“汽船DEおでん”など季節限定クルーズが運航していますよ。びわ湖から大津の町を眺めてみてね。



崇福寺

—— 持統天皇ゆかりの地



志賀の大仏

今は石碑しかない崇福寺跡。でも登れば遠くに琵琶湖が見えるんだ。自然に恵まれてハイキングには良い場所だよ。



柿本人麻呂の「淡海の家…」の歌碑は、近江神宮の時計学校の入口にもあるよ。探してみてね。



天智天皇の娘である持統天皇は、夫・天武天皇の崩御後、息子・草壁皇子を皇位につけるため、ライバルであった甥・大津皇子を死に追いやってしまいます。しかし草壁皇子は病死。それは天智天皇の御霊が慰められていないからだと言われ、女帝は父・天智が築いた近江京の崇福寺へ皇族や宮廷歌人を派遣して祭祀を行わせました。

その折に同行したのが柿本人麻呂（百人一首の「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながしよをひとりかも寝む」の歌の作者）。崇福寺を訪れ、わずか5年しか都がおかれなかった大津京の荒れ果てた様子を見て、天智天皇の時代をしのび、自らが青春時代を過ごした都をなつかしんで無常感を歌に詠んだのです。「淡海の家夕波千鳥汝が鳴けば 心もしのいにしへ思はゆ」びわ湖の情景がイメージされるこの歌は、古来、名歌中の名歌とたたえられ、柳ヶ崎にあるびわ湖大津館の湖畔には歌碑があります。

崇福寺跡は、今は丘の上に礎石が残るだけの場所ですが、当時は伽藍がたちならぶ大寺院だったそうです。山道を少し上らないと行けませんが、丘に上る道の横には志賀の大仏と呼ばれる石仏があります。地元の人に守られ、訪れる人の信仰を集めています。



▶ 崇福寺跡につながる旧山中越の道を詠んだ歌、春道列樹の「やまがわに風のかけたるしがらみは 流れもあえぬ紅葉なりけり」も百人一首に入っています。

▶ びわ湖大津館は旧琵琶湖ホテルを改装したもの。昭和初期の近代名建築で「湖国の迎賓館」として昭和天皇をはじめ、ヘレン・ケラーや、アメリカの俳優ジョン・ウエインも訪れました。



補足情報 ▶ 関蟬丸神社には神職が常駐されていないため、御朱印は滋賀県神社庁（長等公園そば）に行けばもらうことができます。

逢坂関 — 蟬丸と逢坂関



安養寺観音堂



光風堂菓舗「蟬丸」

「これやこの…」の歌で知られる蟬丸は謎の多い人物です。醍醐天皇第四皇子でありながら、盲目であったため逢坂山に捨てられ、逢坂関の近くに庵を結んだといわれる蟬丸は、琵琶法師の祖ともされています。小説やドラマの「陰陽師」にも登場する平安時代の管弦の名手、源博雅が琵琶の秘曲を教えてもらおうと蟬丸を訪ねると、蟬丸の後ろには毎晩、黒い衣を着たお坊さんがいました。あるとき、そのお坊さんの後を博雅がついていくと安養寺の観音堂のところで姿が消えてしまいました。「蟬丸の琵琶を聞いていた、あのお坊さんは観音様だったのではないだろうか」と博雅は思いました。この観音様は「立間観音」と呼ばれ、今も安養寺に安置されています。

蟬丸はこの他にも様々な伝説があり、能の作品にもなりました。芸能の祖神として特に江戸時代までは絶大な信仰を集めました。今も逢坂山には3つの神社があり、その中の一つ関蟬丸神社には、様々な歌にも詠まれた「関の清水」の跡があり、5月には「蟬丸芸能祭」もおこなわれています。



関蟬丸神社からは歩いて20分くらいかかりますが、丸屋町商店街の光風堂菓舗さんでは、その名もズバリ「蟬丸」というお菓子売っているよ。

京阪電車大谷駅から歩いて3分ほどの国道1号線沿いに「逢坂関址」の石碑があるよ。碑の後ろと、近くの鰻料理のお店「かねよ」の庭には「名にしおはば…」の歌にも詠まれた「さねかずら」の木があり秋には赤い実をつけるんだって…





三井寺

—— 前大僧正行尊ゆかりの地



三井寺の中には、新しく「ながら茶房」ができました。休憩するときに立ち寄ってね。ときどき「べんべん」も出ているんだ。べんべんは正義感が強く子どもが大好き。普段は境内を守っています。特技はほら貝を吹くことだよ。



行尊は、三条天皇の皇子・敦明親王の子という高貴な血筋に生まれましたが、十歳で父を亡くし、十二歳で出家し三井寺に入りました。十七歳で寺を出て、吉野と熊野の間にある大峰山で厳しい修験道の修行に入りました。山に籠り、断崖絶壁を登ったり、滝に打たれたりする荒行を重ね、験あらたかな加持祈祷の力を得たとされています。「もろともに…」の歌は、孤独な修行の中、嵐の後に立派に咲く一本の山桜を見て、共感を覚えて詠んだ歌とされています。加持祈祷によりしばしばその霊験を現し、公家の尊崇も高かった行尊は、鳥羽天皇の護持僧に抜擢されます。腰痛で立てなくなった天皇のために読経し、手を差し伸べると天皇がずっと立ち上がったとの逸話も残っています。

1116年（永久4年）に三井寺の長吏となった行尊は、金堂を建立するという悲願を果たします。1123年（保安4年）には天台座主となりますが、延暦寺との対立によりわずか6日間で辞任しています。延暦寺により焼き討ちにあった三井寺を思い詠んだ歌に「すみなれし我が古郷はこの頃や 浅茅がはらに鶉なくらむ」があります。行尊は修行中の感懷を素直にわかりやすく詠んだ歌を多く残し、西行法師の歌にも影響を与えたと言われています。

▶「三井寺」の名前は、天智・天武・持統の三天皇の産湯に用意いられたわき水（三井の霊泉）があり「御井の寺」と呼ばれていたからだそうです。その霊泉は金堂の西の閻伽井屋の中に伝存しています。

▶百人一首を選ぶことを藤原定家に頼んだという宇都宮蓮生頼綱も三井寺とゆかりがあります。焼き討ちにあった三井寺を復興する際に、山王社・拝殿を源実朝の名により建てたそうです。

補足情報



長等神社

—— 藤原俊成と平忠度



「世の中よ道こそなけれ思ひいる山の奥にも鹿ぞなくなる」の百人一首の歌でも知られる藤原俊成は藤原定家の父であり、数々の歌合せの判者を務めた大歌人です。

歌人としても秀れた才能を発揮した武士、平忠度は俊成の和歌の弟子でした。忠度は平家都落ちの際に、一旦、都を離れますが引き返して俊成の家に赴き、今まで詠んだ歌百首あまりを納めた巻物を俊成に託します。「勅撰集の選者になられた時にはこの中から一首でも選んでいただければこの上ない幸せ」と告げ去ってゆく忠度。俊成は涙ながらにそれを受け取ります。源平の合戦が激しくなる中、忠度は一の谷の合戦で戦死。そのとき、巖に結び付けられた文には、「行きくれて木の下かげを宿とせば 花やこよひのあるじならまし」と言う歌が「旅寝の花」という題で詠まれていました。

その後、「千載和歌集」の選者となった俊成は、忠度を哀れみ、「故郷の花」という題で長等山の桜を詠んだ一首「さざなみや志賀の都は荒れにしを 昔ながらの山桜かな」を選びます。朝敵となった忠度の名前を出すことを憚り「詠み人知らず」として入れたのです。

この逸話は、「平家物語」をはじめ能「俊成忠度」など、多くの文学芸能に取り上げられており、唱歌「青葉の笛」の二番は、俊成と忠度の逸話を次のように描いています。

更くる夜半に 門を敲き
我が師に託せし 言の葉あわれ
今わの際まで 持ちし巖に
残れるは「花や今宵」の歌

三井寺の観音堂の前はびわ湖がよく見える展望台。その石段を下りて行ったところにあるのが長等神社。境内には「さざ波や…」の歌の歌碑があるよ。

▶ 長等神社は、天智天皇が大津京鎮護のため長等山の岩倉の須佐之男大神を祀ったのが始まりとされています。

▶ 行尊の百人一首の歌「もろともにあはれと思へ山桜 花よりほかに知る人もなし」厳しい修行の最中に山で出あった山桜の花のほかに誰も自分の気持ちをわかってくれる者はいない…という歌は、映画「ちはやふる」でも、机くが千早たちの友情を再確認するシーンで印象的に描かれました。

補足情報





石山寺

—— 紫式部にゆかりの石山寺

石山寺は最近はお寺スイーツでも有名だよ。寺名の由来となった珉灰石をイメージした叶匠壽庵の「石餅」は西国三十三か所巡礼スイーツにもなっているんだ。芭蕉の「石山の石にたばしるあられかな」をお菓子で表現した茶丈藤村の「たばしる」も人気！



叶匠壽庵「石餅」

石山寺は、紫式部が「源氏物語」の着想を得て、物語を書き始めたところとして知られています。1004年（寛弘元年）に七日間石山寺に参籠した紫式部は、選子内親王から新しい物語を書くようにと言われていたこともあり、石山寺の観音様に良い物語が書けるようにと祈りました。月の美しい夜に瀬田川に映る月を見て、源氏物語の須磨の巻から書き始めたと言われています。式部は思わず近くにあったお経の裏に、物語を書き始めたので、後からお詫びを込めて納めたという大般若経や、式部が使ったとされる硯が宝物館に所蔵されています。

石山寺のご本尊は如意輪観世音菩薩で、この世での幸せへの願いを聞いてくれる仏さまとして、信仰を集めました。京都から逢坂山を越えて打出浜まで出て、そこから船で石山寺への向かうルートが一般的で、他にも多くの歌人が訪れています。「蜻蛉日記」には右大将道綱母（「なげきつつひとり寝る夜のあくるまは いかにかは知る」の歌の作者）が夫の愛が得られずに苦悩する気持ちを晴らそうと石山寺に参詣したことが書かれています。寺に籠っても澄んだ気持ちになれなかったことなど、自分の気持ちを深く見つめた記述などには優れた文学性があると評価されています。



ボクの住所は大津市石山寺1丁目1番1号。もともと「源氏物語千年紀」のキャラクターとして生まれたからなんだ。好きな食べ物は石山寺の門前でも食べられる「しじみ飯」。特技は歌を詠むこと。ボクの歌をひとつ挙げておくよ。
「琵琶の湖きらめく水面に映る春大津の町に旅人集う」



▶ 石山寺のご本尊、秘仏如意輪観世音菩薩は33年に一度で開扉されます。28年12月4日午前中まで特別拝観ができますよ。本堂でお参りするときに引くことができる結縁の紐はご本尊とつながっているそうです。

補足情報



びわ湖

—— びわ湖と百人一首の歌人たち

【大中臣能宣】

白波の打出の浜の秋風に
鹿の初音をそへて聞くかな

【藤原良経】

桜さく比良の山風吹くまに
花になりゆく志賀の浦波

【藤原家隆】

志賀の浦や遠ざかりゆく浪間より
こほりて出づる有明の月

【大僧正行尊】

思へども行くべき方もなき島に
夜ごとに月に誘はるるかな

竹生島

百人一首の歌人で
琵琶湖を詠んだ歌
は他にもあるよ。

白鬚神社の境内には与謝
野鉄幹が上の句、晶子が
下の句を作った「しらびげ
の神のみまへにわくいづみ
これをむすばひとの
清まる」の歌碑があるよ。

白鬚神社

打出浜



【後鳥羽院】

駒並めて打出の浜を見わたせば
朝日にさわぐ志賀の浦波

雄大なびわ湖は古来、湖上交通が盛んでした。紫式部はいやな相手から結婚を迫られたのを機に、都を離れて父・藤原為時が越前の国司として赴任するのに同行することになります。逢坂関を越えて、打出浜から船に乗った式部は、船から見える琵琶湖を見て「三尾の海に綱引く民のてまもなく立ち居につけて都恋しも」と歌を詠みました。都で暮らした式部にとって湖岸の風景はたいへんめずらしかったのでしょうか。その場所は白鬚神社の辺りだとされており、琵琶湖を望む場所に歌碑が立っています。

「かきくもり夕立つ波の荒ければ浮きたる船ぞしづ心なき」は船旅の途中で夕立に襲われそうになり、小さな波に揺られる不安な気持ちを詠んだ歌です。式部はおおよそ1年で琵琶湖の東岸を陸路で都に戻ります。石山寺に籠るのはその後のことになりますが、船旅の情景は源氏物語の「須磨」の巻にも取り入れられていると言われています。

百人一首の歌人の中では、大伴家持も29歳で越中守に赴任するときに陸路を奈良から大津に向かい、打出浜から船で旅に出たとされています。

和歌が低調であった時代に新風を吹き込み、大歌人といわれた源俊賴の代表作と言われる名歌は「鶉鳴く真野の入江の浜風に 尾花なみよる秋の夕暮」。真野浜の秋の風景を詠んだ歌です。百人一首の選者・藤原定家は「雲のゆく堅田の奥やしぐらむ やや影しめる海女の漁火」と言う歌を残しています。

▶ 白鬚神社前の湖の中には大きな鳥居が立っています。古来の伝説や狩野永徳の作とも言われる「近江名所図会」で湖の中に鳥居があったとされることから、昭和12年に復興されたそうです。

補足情報